



1 リズムが特徴的な詩吟 2 表千家流の茶席体験 3 4 しなやかで力強い舞踊 5 100人以上が美声を披露 6 幅広い年齢層が多様なジャンルのダンスを発表 7 息の合ったフラダンス 8 演奏と踊りで会場を一つにした金田中吹奏楽部 9 碁石の音だけが響く会場 10 会場を埋めた作品群

Pickup Topics

四季の歌

心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

落の臺句会

岩井鬼童選

杉の玉吊りて呼び込む新走 大井 良治
 鷗高音張り合ふべきか太鼓打つ 落合 東太
 可憐なり少女のやうなそばの花 高津 澄子
 人買ひ舟下過ぎ行きし霧の橋 藤井耿之介
 野仏の供養を共にのこづち 宮崎富美子
 鉤棒のをどる指先夜なべ妻 山本ひろし

はな俳句会

岩井鬼童選

風受けて独りの日差し身に入みる 井上サワ子
 人生の終着近し熟柿落つ 熊谷カツミ
 亡き夫と偲ぶ想ひ出菊花展 日高八重子
 日差しなほ力弛めず秋暑し 馬郡 京子
 秋めくと肌白く見ゆ腕かな 藤本 鈴子
 長き夜をワールドカップに燃えにけり 山田 花子

福智の風

▶ 久富選手の取材で人生初のボクシング観戦。大声援と会場を包む熱気。全力で挑む姿はここまで人の心を動かすのかと感動を覚えました。今月の特集は「逆転」。広報として感じた地元の危機に、町全体で立ち向かいたいとのメッセージを込めました。強い意思が道を開く。覚悟をもって今と向き合いたいと思いました。(田代)

▶ P.16・17の左にある柄は連続した5・4つの四角で「5(いつの)4(世も)」を意味する「ミンサー柄」。「兄弟都市・中城村との絆をいつの世も!」の願いを込めました。入庁時から村と関わってきた私にしか表現できない何かがあると信じ、ひたすら追求した1か月間。ページの中にその「何か」を感じていただければ幸いです。(藤本)



DATE: Dec.2019
NO: 016

●金田の発展を支えた炭鉱王

谷 茂平

名前が刻まれた
稲荷神社の玉垣
金田町の前身・
神田村出身。
20歳で炭鉱経

営を始め、失敗と閉山を繰り返すが、44歳で金田駅裏に開坑した金谷炭鉱が日清戦争の特需で大成功。村で並ぶ者が無いほどの巨万の富を築き、病院や駐在所を建設するなど村の発展に貢献した。しかし64歳の時、63人が命を落とす炭坑水没事故が発生。再開に向け努力するが遺族への補償も多く、炭鉱業界から姿を消した。

第13回 福智町文化祭

主催/福智町文化連盟

個性花開く文化の祭典

「ひとりひとりの文化がある」をテーマに3週にわたり行われた文化祭。歌や絵画、舞踊など個性あふれる表現が、芸術深まる秋にふさわしく、町を「文化の色」一色に染めました。



作品3千点以上が金田体育館と金田分館に並ぶ「作品展示」で華々しく幕を開けた「第13回福智町文化祭」。11月2日から2日間、千人を超えた来場者は、作品の技巧や表現を堪能しました。「文化の日」の3日には「歌謡・詩吟発表会」で、61人が自慢のノドを披露。茶席や作陶体験も行われ、様々な文化に触れる場が設けられました。



↑露店が立ち並び金田体育館前で「方城ダンスフィットネスクラブ」が来場者の手拍子に迎えられるキラキラのあるダンスを初披露。全ての町民の表現の場として、分け隔てなく活躍の場を提供しました。

10日は舞台を地域交流センターに移し「ふれあいコンサート」を開催。歌や演奏など11組35曲の美しい音色が響き、出番を終えた出演者もうっとり耳を傾けました。最終日の17日は「芸能発表会」でダンスや日舞、民謡を幅広い年齢層が披露。中央公民館の「囲碁大会」では、段位に分かれ盤上で静かな熱戦が展開されました。各自の個性を様々な形で表現した文化の祭典。日頃の成果披露の場として、新たな文化に触れるきっかけとして地域に根付いています。

鬼杉赤池俳句教室

岩井鬼童選

天守閣威を張る高さ鷹渡る 建部三由紀
 鉢巻きに闘志も結び運動会 西田 真美
 直立は田の神へ謝意曼珠沙華 長副美恵子
 御仏と闇を一つに虫時雨 松岡 萬枝
 長老が神の顔して仕祭 岩井 童子
 曼珠沙華墓標と咲きぬ古戦場 二宮 正人
 手を引いて夫婦元気で敬老日 清原サヨ子
 何事もなき幸せや敬老日 植木 千エ
 ぬくめ酒舌鼓打ち盃を干す 倉石嘉代子
 爽やかにゴールテープを切りにけり 小三 西田 咲笑
 真黄色匂いが目立つ金木せい 小三 西田 芽生

方城句会

自選

孫や娘と楽しからずや年の市 池田 駒女
 まなかひの蕭々と冬日落つ 藤井耿之介
 足元に纏はるように猫毛雨 檜 幽可